

平成15年度第1回愛知県周産期医療協議会

議 事 要 約

日 時：平成15年6月6日（金） 午後3時から午後5時まで

場 所：名古屋第一赤十字病院 第6会議室

委員

出席者：安藤委員、石川委員、石田（昭）委員、石田（時）委員、一木委員、犬塚委員、
岡田委員、小山委員、柴田委員、鈴木委員、寺澤委員、戸苅委員、早川委員、
二村委員、松澤委員、森川委員、山崎委員、吉田委員（代理）

欠席者：浅井委員、加納委員、奈倉委員、森田委員、

事務局：愛知県健康福祉部児童家庭課長、愛知県健康福祉部児童家庭課主幹（母子保健グループ）
名古屋市健康福祉局健康部健康増進課長（代理）
名古屋第一赤十字病院第二小児科副部長、名古屋第一赤十字病院第二産婦人科副部長、

欠 席：

司会者：名古屋第一赤十字病院第二小児科副部長

議 長：安藤副会長

1. 安藤副会長あいさつ

2. 犬塚技監あいさつ

3. 議事

（1）平成15年度愛知県周産期医療情報システムについて

- * 平成16年度に情報システムが更新になります。
- * 新システム案としてサーバー類をNTTデータホスティングセンタに設置してはどうか。
- * 高速で高いセキュリティと低コストのBフレッツやADSLを活用した回線をイントラネットとして利用してはどうか。
- * 専門相談の入力方法・画像転送の検討をしてはどうか。
- * 端末については当初からの9施設は更新予定です。
- * 新システムの形態については予算によります。
- * パスワードの発行は年に1・2件です。
- * 新しく開業した医療機関へ事務局より案内を出す。

（2）平成15年度愛知県周産期医療専門相談事業の事業相談計画について

- * 昨年同様に各施設持ち回りで実施したいと考えています。
- * 昨年行っていない施設は今年はぜひ開催をお願いします。
- * 後半に集まらないように早い時期の開催をお願いします。
- * 各施設開催日時、内容を検討し、実施及び事務局への連絡をお願いします。

（3）平成15年度愛知県周産期医療調査・研究事業の事業計画について

- * 調査・研究事業として2題を予定しています。
 - 1.<低出生体重児の地域療育利用に関する実態と問題点に関する調査>（あいち小児保健医療総合センター 山崎 嘉久先生）
 - * 家族に対する調査を行い、地域の支援や保健機関とのつながりについて調査します。
 - 2.<愛知県下における母体搬送応需状況の実態調査>（名古屋第一赤十字病院 石川 薫先生）

- * 平成11年度は搬送について調査をしました、今年度は応需について調査します。
- * 搬送元、受入れ病院にアンケート調査をし、実態を調査します。

(4) 平成15年度愛知県周産期医療研修事業の事業計画について

- * 研修事業として平成15年の秋に名古屋で予定しています。
- * 平成14年度調査・研究事業の報告を行います。
 1. <愛知県下のハイリスク新生児（NICU収容児）の退院後の地域での支援体制（保健師活動）の実態調査（継続）>（あいち小児保健医療総合センター 山崎 嘉久先生）
 2. 1 <愛知県下における脳性麻痺児の実態調査（継続）>（岡崎市民病院 早川 文雄先生）
「脳性麻痺の成因としての周生期脳障害」
 - 2 <正期産児の低酸素性虚血性脳症の分析>
 - a. 周産期情報の解析
 - b. 画像診断による解析
 3. <NICU入院児における母子相互作用に関する研究>（名古屋第一赤十字病院 鈴木 千鶴子先生）
「長期母子分離と産後の抑うつが子供への愛着形成に与える影響について」
- * 講演会として平成15年の秋以降に名古屋で予定しています。
- * 講演会、講師として3案を考えています。
 1. <日本の産科医療の問題点と未来への提言>（吉祥寺南診療所 長屋 憲先生）
 2. <言葉以前の赤ちゃんことば>（京都大学大学院教育学研究科教授 山田 洋子先生）
 3. <胎児診断、心奇形を中心に>（神奈川県立こども医療センター 川滝 元良先生）
- * 各講師に依頼して承諾をいただいたテーマで開催します。
- * その他として何か良い案がありましたら提案をお願いします。

(5) 平成14年度愛知県周産期医療調査・研究事業の報告について

- <新生児脳症における全身性炎症反応症候群の関与について>（岡崎市民病院 早川 文雄先生）
- * 低酸素虚血性脳症が主因とされがちな新生児脳症において、全身性炎症反応症候群がどのように、関与しているか調査研究を行いました。
- * 周産期管理の向上によって、低酸素虚血状態の予防を図ると同時に、新生児領域への全身性炎症反応症候群治療導入により、脳障害を軽減できる可能性が示唆されました。
- * 研修会で詳しく報告します。
- <愛知県下のハイリスク新生児（NICU収容児）の退院後の地域での支援体制（保健師活動）に関する実態調査（2年次）報告>（あいち小児医療総合センター 山崎 嘉久先生）
- * 協議会関係者と保健機関関係者で連絡票を作成し調査しました。
- * 平成14年11月から15年1月までに退院または退院予定児に調査しました。
- * 子育て支援の立場での周産期医療と保健活動の連携は、地域の母子保健活動に重要です。
- * 県内の25施設の保健機関において、医療機関からの連絡を受けたことがないと回答がありました。
- * 連絡基準の不統一性、親の不同意による守秘義務遵守や保健活動開始の困難さなどの問題が指摘されました。
- * 虐待リスク要因の高い子供に対して、子育て支援に連絡票を用いた周産期医療と保健活動の連携は有効でした。
- * 地域でのネットワークシステムの構築、医療保険制度や福祉制度など社会システムの改革が必要です。

(6) 報告事項

- <愛知県総合・地域周産期母子医療センターの現況について>
 - * 厚生労働省に報告したものを表にしましたので、参考にしてください。
 - * 各施設で病床数・常勤医師数の考え方が違うので、定義付けをして調査し直してはどうか。
 - * 定義について再度検討します。
- <名古屋第一赤十字病院 総合周産期母子医療センター 平成14年度総括について>
 - * 資料 5をご参照ください。

- * 産科分は次回報告します。
- <平成12年度愛知県周産期医療調査・研究事業の報告について>
- * 資料 6をご参照ください。

(7) その他

- <周産期医療機関と保健機関の連携方策について>
- * 情報提供があると、保健活動をスムーズに行うことができます。
- * 小委員会を設置して意見を集め、素案を作成し、周産期協議会で検討してはどうか。
- * 山崎委員に委員長をお願いして、小委員会を立ち上げてはどうか。
- * 引き受けます、ご協力をお願いします。
- <不妊専門相談事業について>
- * 精神的負担の軽減を目的とします。
- * 愛知県の委託事業として、平成15年7月から名古屋大学医学部附属病院内で開始予定です。
- * 治療ではなく、あくまでも相談です。
- * 平成15年6月21日(土)に愛知芸術文化センターにて「不妊を考える」県民公開講座を開催します。
- * 協議会の事業ではないが、情報収集して報告したいと考えています。
- <次回医療協議会開催について>
- * 平成15年度第2回愛知県周産期医療協議会を、平成15年11月21日(金)「名古屋第一赤十字病院 第6会議室」にて開催します。